

あるべき税制委員会 76回 議事録 (2015年11月4日)

文責 森信茂樹

第76回あるべき税制委員会は、11月4日、「消費税軽減税率」について議論を行いました。冒頭、経済産業省から、最近の状況の説明をいただき、森信から、別添資料に基づき、軽減税率問題の検討状況、課題、問題点などを説明し、議論を行いました。

森信の説明の概要は以下のとおりです。

- ・安倍総理は、公明党との選挙協力を進める見地から、消費税軽減税率の導入に舵を切ったが、財源として、10%引き上げ時に導入を予定している総合合算制という、低所得者への社会保障の廃止を行うというのは、「政策の逆流」だ。
- ・国民生活にとって重要な社会保障が削減され、高所得者に有利な軽減税率が導入されるというのでは、多くの国民の納得は得られない。
- ・政治判断で導入するというのなら、消費税制度の信頼性を高める内容にする必要があり、カギを握るのは、欧州型インボイスの導入だ。

以下の議事録本文は会員用メールマガジンで配信いたします。